

令和 6 年度府中小学校建設基本構想（案）

石岡市教育委員会

【目次】

1 章. 総論

1-1. はじめに	1
1-2. 基本構想の策定の目的	2
1-3. 基本構想の策定に向けて	2
1-4. 近年の社会情勢と小学校教育を取り巻く状況	3
1-5. 本市各種計画等との関連性	4
1-6. 各種ゾーン機能の基本的考え方	5

2 章. 建設コンセプト

7

3 章. 参考資料

1 8

3-1. 第1回ワークショップ報告書	1 8
3-2. 第2回ワークショップ報告書	3 4
3-3. アンケート調査結果	4 4

1－1 はじめに

石岡市立府中小学校(以下、「府中小学校」という。)は、昭和 20 年 4 月に石岡町立第二国民学校として開校し、昭和 24 年 5 月に石岡町立府中小学校と改称し、今日に至るまで 80 年以上、子どもたちの学び舎として、また、地域の学校として歩みを進めてきました。

その間、昭和 48 年には、根当分校が独立し、石岡市立北小学校となったほか、昭和 53 年には石岡市立杉並小学校が新設され、杉の井、木間塚、正上内、荒金、北の谷地区が学区外となり、令和 6 年には、石岡市立北小学校と統合し、新たな府中小学校となるという沿革をたどってきました。

府中小学校は、国の特別史跡である常陸国分尼寺跡に隣接した学校であり、校歌の一節にも「歴史ゆかしい 尼寺が原 礎石 今も なお光る」と歌われ、1,300 年以上前から続く歴史を繋ぐ学校と言えます。

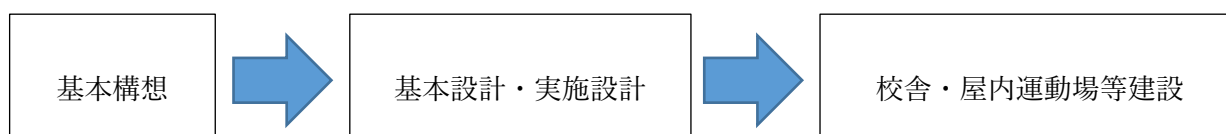
このような歴史ある府中小学校ですが、現在の校舎や屋内運動場は、昭和 42 年から昭和 55 年にかけて建設されたものであり、築年数 50 年を超える校舎があるなど老朽化が進んでおり、新たな校舎建設が待ち望まれてきました。



1－2 基本構想の策定の目的

本基本構想は、府中小学校の新築に当たり、今後着手する府中小学校の建設工事の設計業務に向け、学びの空間の考え方や地域特性を踏まえたコンセプト、配置計画等をまとめることを目的として策定するものとなります。

建設に向けたイメージ図



なお、本基本構想は、基本構想策定時での考えを基に検討し、取りまとめたものであり、社会情勢や事業の進展、設計業務の進捗等により変更となる可能性があります。

1－3 基本構想の策定に向けて

本基本構想は、府中小学校の児童、卒業生、保護者、教職員、地域住民の方などからアンケートにより意見をいただき、学校等の協力を得て2回のワークショップを開催することで、幅広い層から多くのご意見をいただき、そのご意見を多く取り入れたものとなっております。



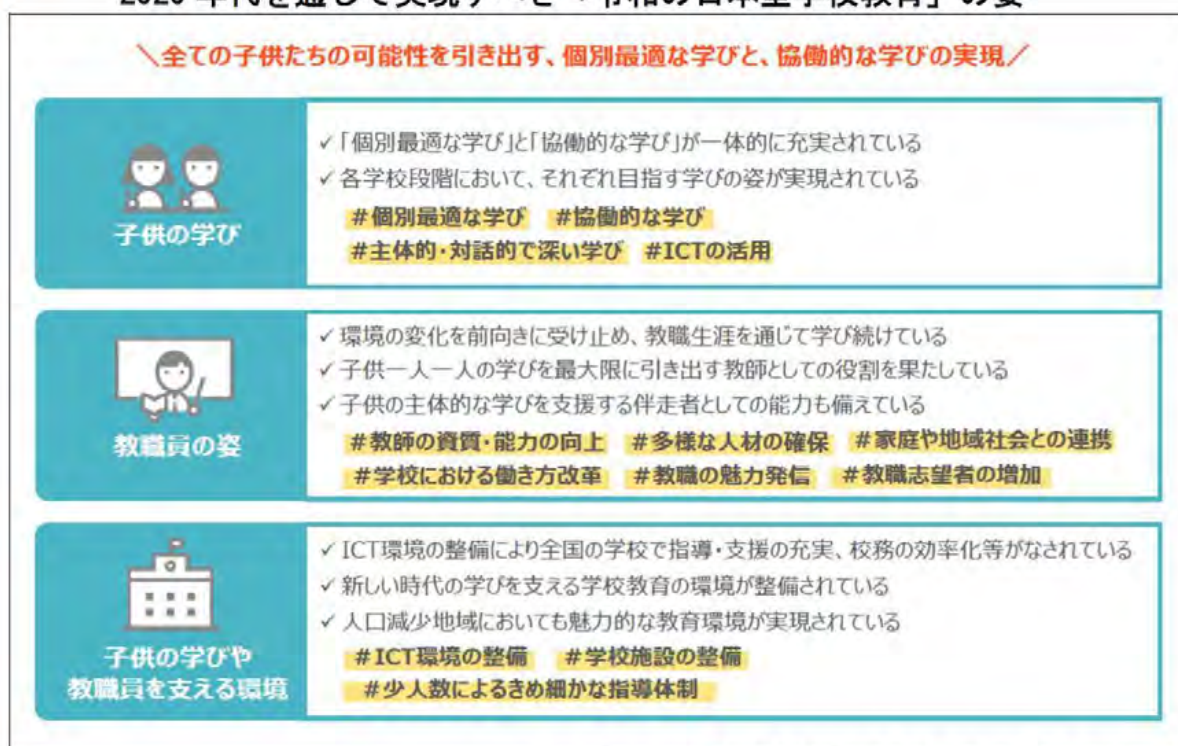
1-4 近年の社会情勢と小学校教育を取り巻く状況

「今後の学校施設の在り方に関する報告書について（令和4年3月31日3文科施第353号）」で紹介されている「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」では、「空間は人をつくり、人によって生かされる」という考え方の提示から始まり、Society 5.0 時代として、産業構造や社会システムなど社会の在り方そのものが大きく変化しつつある中、子供たち一人一人を大切に、また、お互いを尊重し、協働しながら探求を深め、問題を解決していく資質・能力を育成することが、学校教育の大きな課題になっていることや、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するための改革の方向性が示され、ことで多様な教育方法、学習活動を自由に展開するためには、施設環境にも大きな変革が必要とされています。そして、令和の時代となった今、GIGA スクール構想による1人1台端末、校内ネットワークの拡充が進み、小学校における35人学級の計画的整備や、ポストコロナを見据えた「ニューノーマル」が求められる状況を背景として、新しい時代の学びにふさわしい学校施設の在り方を明確化し、それを実現することが必要とされています。

ICT の活用などにより、学びのスタイルが多様に変容し、校内のあらゆる空間が子供たちの学びの場となる可能性を秘めており、学校施設は、教科等のみならず、給食や清掃等の課外活動など、全人的な教育を提供する場、子供たちの愛着・誇り・感謝の気持ちを育む場ともなり、それは教室に閉じるものではありません。子供たちがともに集い、学び、遊び、生活する実空間として、また、他者と協働し、直面する未知の課題に対して学び合い、応え合う共創空間として、どのような学びを実現したいか、どのような空間を創り、それをどう生かすか、関係者が新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有しつつ、「未来思考」をもって実空間を捉え直す必要があります。

子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、また、そこに集う人々にとっても「いきいきと輝く学校」となるために、学校施設全体を学びの場として捉え、魅力あるものにしていく必要があります。（一部抜粋「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」）

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿



1－5 本市各種計画等との関連性

令和4年度から令和13年度までまちづくりの方向性を示す最も基本となる計画として令和4年3月に石岡市総合計画が策定され、「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」を将来像としてまちづくりを進めています。

石岡市総合計画では、大切にしたい基本的な考えとして3つの基本理念を設けており、そのうち1つが、「対話・学び」であり、学びを人の成長の原点として大切にすべきものと位置づけています。

令和6年3月に策定した石岡市教育大綱では、石岡市総合計画と整合性が図られており、「ふるさとに学び 夢にはばたく 輝くひとづくりのまち」を本市における教育行政の基本目標と定め、より具体的な計画である石岡市教育推進計画において、児童生徒のよりよい学習環境や生活環境、人間関係の構築を目指し、望ましい教育環境の整った、安全で快適に学べる学校施設の整備・充実を目指しています。

また、本市は、令和4年10月1日にゼロカーボンシティ宣言をしています。脱炭素化社会の実現を目指した施設整備も重要な観点であり、環境にやさしい施設整備を目指す必要があります。

1－6 各種ゾーン機能の基本的考え方

(1) 配置

常陸国分尼寺跡の隣接地であることを踏まえ、遺構の影響が少ないと判断される現在の南側を中心に配置します。

また、仮設校舎を建てずに新築することで、事業費及び全体工期の削減を図ります。

(2) 普通教室

現在の児童数と将来推計を踏まえ、1 学年 2 室の計 12 室を基本とします。ただし、学年 1 つにつき、1 つの多目的室を設け、1 学年 3 室の年度が発生した場合にも対応できるようにします。

なお、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」でも示されているように、学校施設全体が学びの場となる考え方から、学習空間を教室外の廊下にも広げ、多様に活用できるよう、廊下を広くします。

現在の児童数及び将来推計

令和7年度	令和 12 年度	令和 17 年度	令和 22 年度	令和 27 年度
399 人	358 人	295 人	255 人	234 人

(3) 特別支援教室

8 室程度を基本とします。ただし、人数が少ない場合や個別指導、クールダウン等にも活用できるよう、フレキシブルに部屋の分割ができるようにします。

(4) 特別教室

図工室、家庭科室、理科室、音楽室、図書室を配置します。

また、図工室、家庭科室、理科室、音楽室については準備室を設けます。

なお、図書室に隣接した多目的に使用できる図書スペースを設けます。

(5) 保健室

ケガが発生しやすい屋内運動場やグラウンドへのアクセスに加え、保護者の迎えや救急車両の出入りも考慮した駐車場からアクセスしやすい配置とします。

(6) 児童用トイレ

乾式とし、大便器を全て洋式化とします。バリアフリースイレを設けます。

(7) 屋内運動場

校舎にアクセスしやすく、地域開放の際も利便性が高くなる配置とします。
また、空調設備を設けます。

(8) 管理エリア

校長室、職員室、資料室、印刷室を設けます。

(9) 学童施設

入所児童数を 160 人とし、4室を設けます。

また、保護者の迎えを想定し、駐車場からアクセスしやすい配置とします。

(10) その他の諸室

放送室、配膳室、職員用トイレ、会議室を設けます。

歴史を身近に感じ、主体的な学びを養い、 地域愛を育む学校づくり

【目次】

(1) 設計主旨	8
(2) 多様な学びを得られ、誰もが安心して学べる学校	8
(3) 児童の安全を第一に、地域や歴史とのつながりを大切にした配置計画	9
(4) 児童の安全を見守る配置と、のびのび快適に学べる平面計画 (1 階)	10
(5) 広場を中心に多彩な交流が生まれ、学びが広がる平面計画 (2 階)	11
(6) 多様な教育形態に柔軟に対応できる間仕切り計画	12
(7) 一人ひとりの学び方に柔軟に対応できる開放的な「階段としゃかん」	12
(8) あらゆる災害に強い学校づくり	13
(9) 防犯性を高めた隙のない安全な学び舎	13
(10) 茨城県産材を活かしたシンプルな構造計画	13
(11) 環境共生対策が見える化し、児童・教職員が自主的に取り組む	13
エコスクール	
(12) 自然を活用し、児童にも環境にも優しい学校	13
(13) ライフサイクルコストを押さえるための工夫と考え方	14
(14) 仮設校舎を必要としない工事計画	14
(15) 歴史・文化を未来へ継承する生涯学習の場	15
(16) 常陸国分尼寺跡の周辺に点在する史跡、文化財の情報を	15
分かりやすく発信	
(17) 歴史・文化を体験、発信する拠点	15
(18) 具体的な体験プログラム	16
(19) 常陸国分尼寺跡に隣接する府中小学校の特徴を活かす学び	16
(20) ボランティアガイドによる自己成長の機会、社会貢献の実感	16
地域愛を育む	
(21) 設計・工事工程	17

(1) 設計主旨

歴史を身近に感じ、主体的な学びを養い、地域愛を育む学校づくり

国の特別史跡に隣接する立地は学びの場として打ってつけの環境です。

子どもたちが日々学び、活動する日常の風景の一部となるよう常陸国分尼寺跡を積極的に取り入れ、親しみや愛着を感じながら歴史に触れ、興味を持って主体的に学ぶことができる環境をつくりまします。多様な学びを展開できるゆとりある空間づくりや、様々な交流が生まれる配置計画、心落ち着ける居場所づくりなど、子どもたちの学びや状況にあわせた柔軟な授業が展開できる環境を整備し、一人ひとりが安心してのびのびと学び、活動できる学校をつくりまします。

古代から残る風景を未来へつなぐ

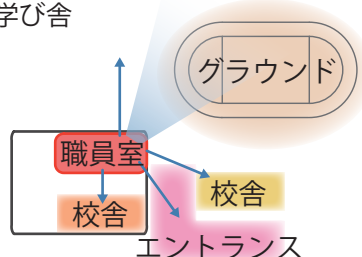
子どもたちが登校するエントランス側から常陸国分尼寺跡まで視線が通る空間をつくり、毎日目にする風景の中にまるで額縁のように切り取られた景色をつくりまします。季節や天気、時間と共に刻々と移り変わる景色に注目できる環境をつくることで、日常の中に変化や気付き、発見を見いだせる機会を創出します。

小学校生活の6年間、子どもたちの成長と共にある風景は、心象風景となっていつまでも心に残り続け、文化・歴史を大切に想う気持ちを育みます。

(2) 多様な学びを得られ、誰もが安心して学べる学校

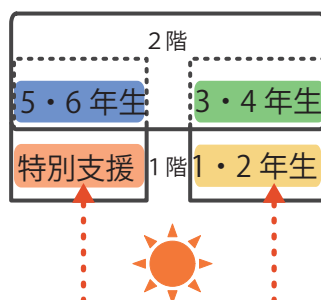
①安心・安全

- ・児童がどこにいても目が届き、児童が安心して過ごせる配置計画
- ・災害時にも配慮した教室配置
- ・明確な歩車分離と広々とした昇降場
- ・防犯性を高めた隙のない安全な学び舎



②健康の保持

- ・全ての普通教室を南向きに、明るく健康的な環境に
- ・空調や照明に頼ることなく心地よい空間をつくる断面計画



③心理的な安定

- ・目的に合わせ児童が選んで利用できる多様な居場所
- ・陽の光や木の温もりを感じる明るい校舎



④コミュニケーション

- ・元気な声が届く、明るく開放的で見守りやすい昇降口
- ・みんなが集まり交流できる多目的スペース
- ・地域の人々や観光客との交流の機会創出



⑤地域への愛着を育む場

- ・常陸国分尼寺跡と隣接する環境を活かし視線を通す配置計画
- ・日常の風景に取り込み、親しみと愛着を育む



⑥新たな可能性を発見する場

- ・多様な学びの環境をつくり児童一人ひとりが自身の得意を発見し取り組める環境



(3) 児童の安全を第一に、地域や歴史とのつながりを大切にした配置計画

常陸国分尼寺跡の歴史を知るきっかけとして、校舎からの常陸国分尼寺跡の眺望が、児童の日常風景となるよう計画します。卒業後も児童の心象風景として記憶に残り、石岡の歴史を後世に受け継いでいくことを期待します。



※基本構想段階のものであり、今後の設計業務においてより詳細に精査するものです。

(4) 児童の安全を見守る配置と、のびのび快適に学べる平面計画

1階ゾーニング

- 児童の安全を第一
- 交流が自然に生まれる配置計画
- 学校全体を学びの空間に
- 様々な変化に柔軟に対応できる

常陸国分尼寺跡



※基本構想段階のものであり、今後の設計業務においてより詳細に精査するものです。

2階ゾーニング

常陸国分尼寺跡

学童

駐輪場

体育館2階のギャラリーは授業はもちろん、展示やイベントなど多様に活用できる

グラウンド

體育館

歴史を身近に感じ、日常的に学べる環境

常陸国分尼寺跡が望め、児童の日常風景となることで、心象風景として記憶に残る空間づくりを目指す

学年ごとに多目的室を置くことで
自由に使える空間が広がり、
様々な授業や活動で活用することができる

事務室多目的

特別教室

廊下

中学年 CR

階段としゃかん

多目的

資料室多

WC

事務室

廊下

高学年 CR

駐車場

皆が安心して過ごせる環境

それぞれのクラスの近くに
トイレや資料室等を配置

未来の様々な変化に対応できる計画

児童の減少などにも柔軟に対応できるよう、
可動間仕切りを採用する計画

多様な授業形式が可能な計画

廊下を広めにとることで、
イベントやグループ学習等
教室の延長空間としての利用が可能

学年を超えた交流や学び、気づきを育む場所

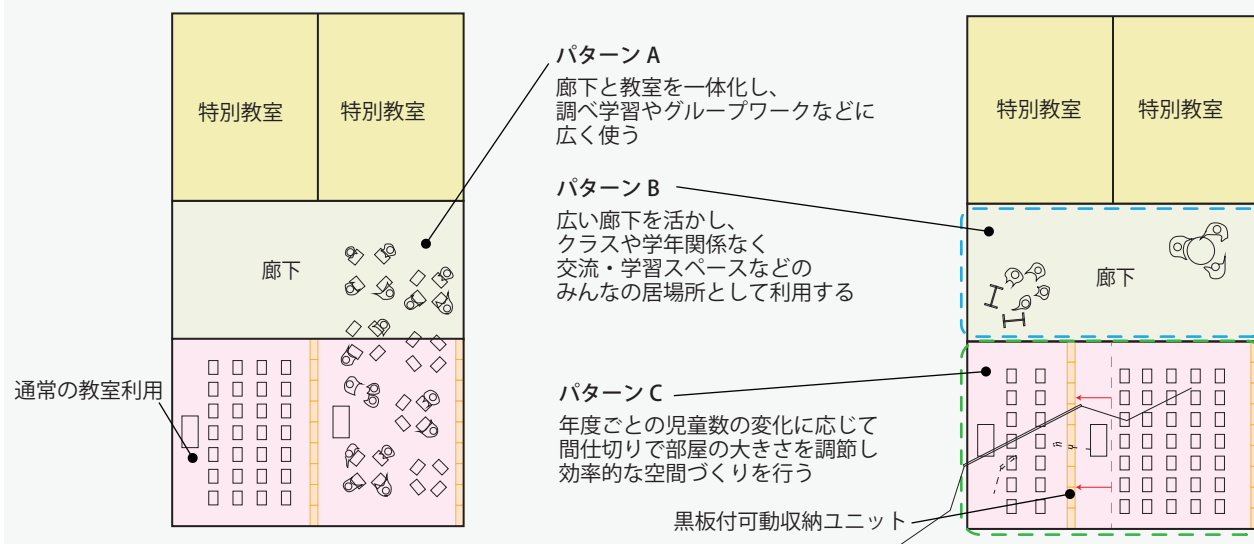
階段としゃかんと繋がるスペースは、気軽に本に触れられる場となる他、イベント等でステージとして利用するなど様々な活用が可能



※基本構想段階のものであり、今後の設計業務においてより詳細に精査するものです。

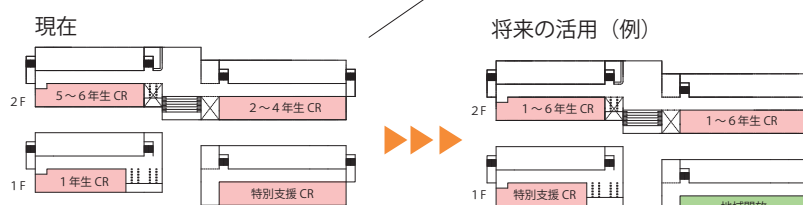
(6) 多様な教育形態に柔軟に対応できる間仕切り計画

■多様な教育形態に柔軟に対応できる間仕切り計画



■地域と連携し、教室を有効に活用

地域と連携し、教室を無駄にすることなく有効に活用できる計画。誰もが利用でき、多世代が交流できるみんなの居場所として、地域の学びの場として、活動の拠点として様々な活用方法が考えられます。



将来、児童の減少などがあった際には、1階を地域に開放する等、柔軟な活用が可能になります。

(7) 一人ひとりの学び方に柔軟に対応できる開放的な「階段としゃかん」

地域に根付く歴史を受け継ぎ、多様な交流から学年や障がいの垣根を超えた新たな気づきや学びが生まれるバリアフリー空間

常陸国分尼寺の近くにあった鹿の子遺跡には、かつて鍛冶工人が働く巨大鍛冶工房が存在し、多種多様な人々が共に働くという現代に通ずる歴史が根づいていました。

学年・障がいの有無にかかわらず、多彩な交流から、新たな気づきや学びが生まれる空間を創出します。

子どもの主体性を育む学びの場

2階の窓からは常陸国分尼寺を一望
日常風景として子ども達の心に根付き、愛着を育む

階段は休憩したり、本を読んだり、勉強したり、それぞれが思い思いに過ごせる

階段は発表やイベントや展示等、ステージとしても活用できる

ミーティングや打合せの場、リフレッシュの場として活用

テーマに合わせた関連資料を探したり、広げたりしながら授業の展開も可能

学年やクラスの境界を超えたコミュニティ創出の場

学年や障がいの有無にかかわらず、交流が生まれ、多様な児童との関わりを通して学べる環境

2階 階段としゃかんイメージ

(8) あらゆる災害に強い学校づくり

①耐震性の高い構造

- ・主要構造部の耐震性能（重要度係数 1.25）を高めることはもちろん、仕上げ（二次部材）や設備機器が落下しない安全な計画

③自然エネルギーの活用

- ・外断熱＋断熱サッシ、自然通風、自然採光により真夏でも最小限のエネルギーで過ごせる施設
- ・太陽熱給湯＋暖房システムを採用
- ・雨水回収＋ろ過でトイレ洗浄水として活用

②児童が避難しやすい学校

- ・校舎 4 力所に階段を備えることで避難時の動線を分散しスムーズな避難を促します。
- ・特別支援室は最短距離で避難できるよう緊急車両等、車が停車しやすい位置に配置
- ・防火壁等により区画し、安全に避難が可能な計画とします。

④災害時、地域の避難所として機能する学校

- ・非常用発電機を情報通信機能の確保や帰宅困難児童への対応に活用
- ・避難時に用途ごとにエリア分けがしやすい計画
- ・緊急車両と連携が取りやすい保健室の配置

(9) 防犯性を高めた隙のない安全な学び舎

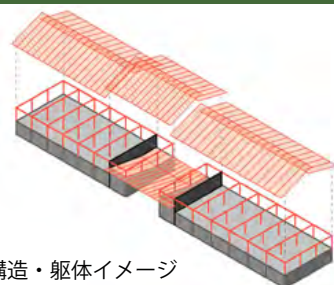
- ・職員室などから見通しの良い校舎配置により、自然に目が行き届く配置計画
- ・防犯カメラやネットワークカメラの導入による防犯体制の構築
- ・最新のセキュリティ設備に加え、教職員や地域による見守り（連携）を組み合わせ、物理的にも心理的にも隙のない学び舎

(10) 茨城県産材を活かしたシンプルな構造計画

- ・茨城県産材を積極的に活用し、豊かで温かみのある教育環境を実現します。
- ・古代から使用されている木造の耐久性を活かす構法、仕様に取り組みます。



内装イメージ



構造・躯体イメージ

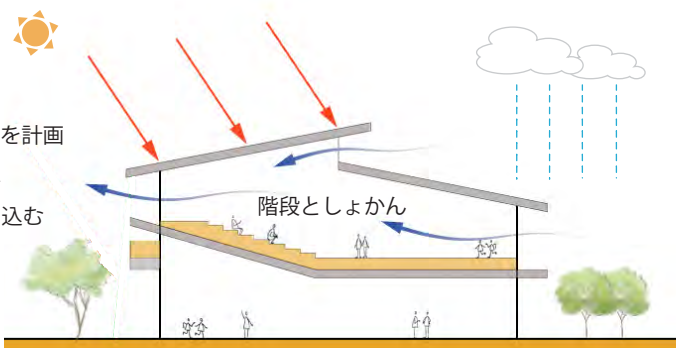
(11) 環境共生対策を見える化し、児童・教職員が自主的に取り組むエコスクール

- ・環境に関する知識や理解を深めるとともに、日常生活におけるエネルギー消費の実態を知り、子どもたち自身の工夫・実践を通して環境学習への意欲を高める。

(12) 自然を活用し児童にも環境にも優しい学校

- ・化石燃料を消費しないことを第一目標とし、第二に自然エネルギーの活用、第三に省エネ機器の導入を検討する。
- ・2 階の勾配屋根に太陽光集熱装置を設置し、冬は暖房に活用、夏は暖気を排出し快適な環境とする。
- ・建物周りの既存樹木を可能な限り残し、新たに設定する外構範囲にも自然を取り込むことで、木陰や葉の蒸発作用により起こる涼風を敷地内に取り込みます。
- ・北側からの安定した自然採光の取り込み、太陽光発電パネルの導入を視野に入れ、自然エネルギーを効率的に活用します。
- ・断熱に優れた Low-e ガラス、気密性サッシ等で断熱性能を高め、省エネルギーの計画とします。

- ・夏の太陽光を遮る屋根を計画
- ・太陽光集熱装置の設置
- ・外の空気を充分に取り込む断面計画
- ・木陰や葉の蒸発作用による涼風を敷地内に取り込む



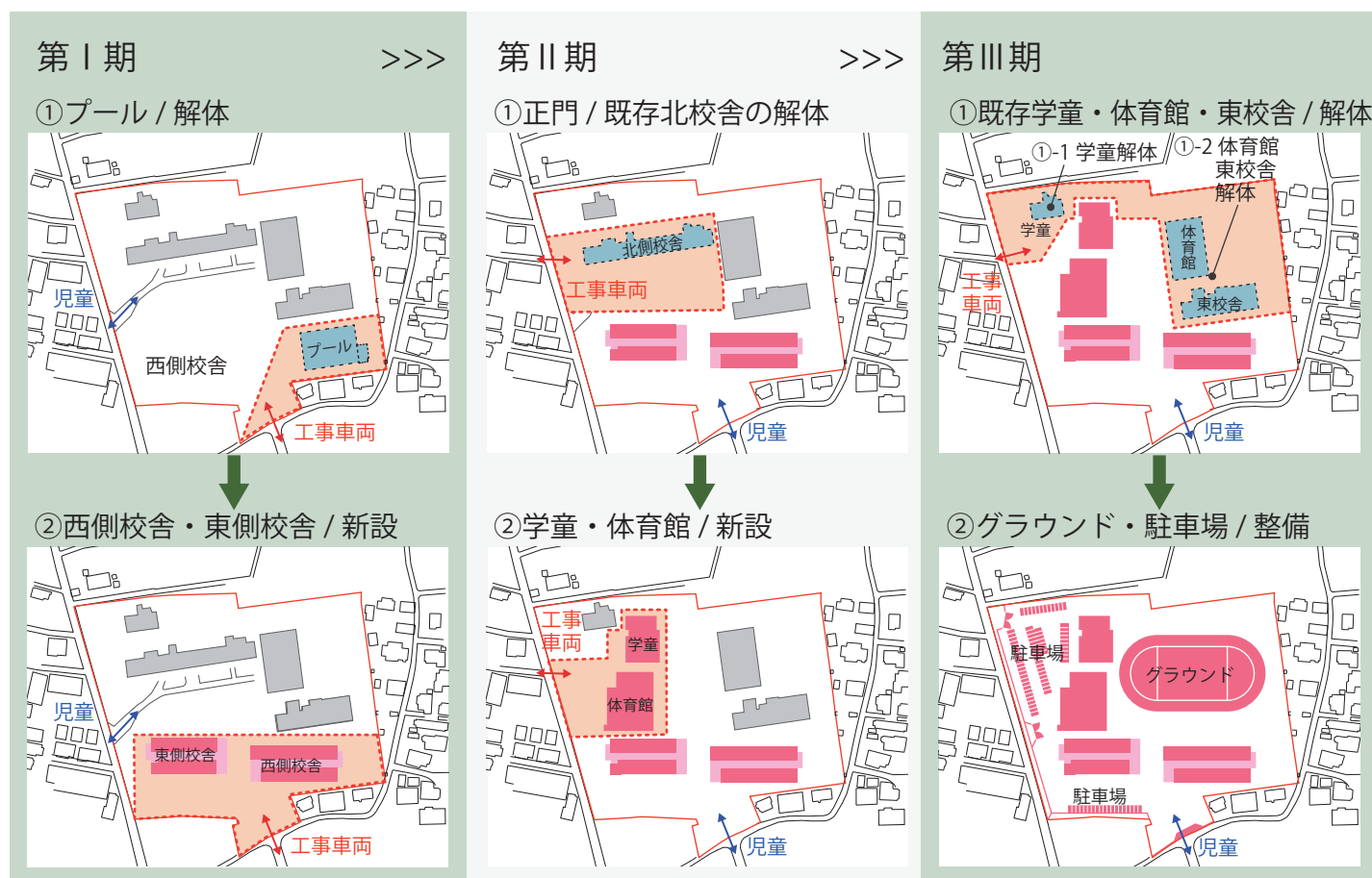
(13) ライフサイクルコストを抑えるための工夫と考え方

無駄を排除して 合理的にコストを縮減	多様な交流の場や豊かな緑を取り込みながら全体をコンパクトにまとめたプラン 特別教室を共用化して面積効率を高める モジュール化・ユニット化を図り、コスト低減、工期短縮
高耐久・長寿命建物	高強度コンクリートを採用した躯体
水光熱費節減	躯体の高断熱化、緑のカーテン 自然採光、自然通風を屋内に導入 太陽光・自然エネルギーの活用 ZEB を目指した計画 深い庇で暑さと紫外線劣化を緩和 クール&ヒートトレンチを設置し暖房負荷軽減 高効率・省エネ型設備機器・深夜電力利用コジェネ
清掃費節減	テラスから作業可能とし、ガラス清掃費削減 ドライトイレを採用、清掃費削減 耐久性が高く汚れにくい材料の選択
修繕・更新費削減	経年劣化しにくい建物とし、メンテナンス費用を最小限に

(14) 仮設校舎を必要としない工事計画

- ・既存校地の利用制限を最小限にし、児童に負担のない工事計画とします。
- ・工事車両の動線が児童の動線と干渉しないよう配慮します。

新設
 既存建物
 解体
 工事範囲



(15) 歴史・文化を未来へ継承する生涯学習の場

子どもも大人も、訪れる全ての人が学べる生涯学習の場 石岡の歴史・文化を継承する体験・発信の拠点に

常陸国分尼寺跡は地域の人々の憩いの場、観光施設として、多様な人々が集まる要素を持ち合わせています。その要素を活かし、子どもたちが地域の人や観光で訪れた人など、多彩な人々と交流し、共に学べる場づくりが可能となります。常陸国分尼寺跡という国の特別史跡と隣接する立地は希少であり、その特徴を最大限活かせるよう、石岡市の歴史や文化を発信、未来へ継承する場とすることで常陸国分尼寺跡の魅力を高めることができます。



瓦塚窯跡



鹿の子遺跡



常陸国分寺跡



常陸国府跡



鹿の子遺跡（復元）

(16) 常陸国分尼寺跡の周辺に点在する史跡、文化財の情報を分かりやすく発信

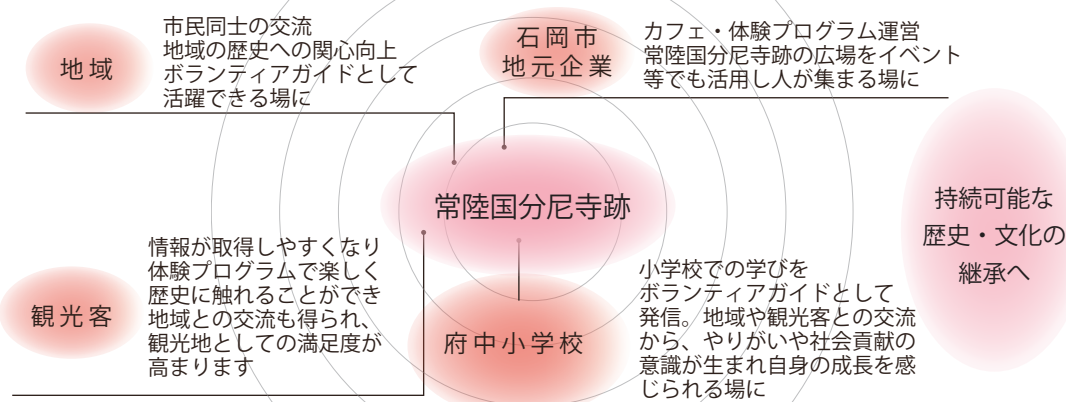


常陸国分尼寺跡の周辺には歴史的な遺跡や文化遺産が点在しています。常陸国分尼寺跡を拠点とし、情報を集約することで、より分かりやすく情報の発信が可能になり、訪れた人々の歴史文化への理解を深めることが期待できます。

(17) 歴史・文化を体験、発信する拠点

小学校 × 歴史体験プログラム

小学校、市、地元企業、地域の人々が一体となり活用・運営し、楽しく歴史に触れられるコンテンツや体験イベント、ワークショップを開催し、学びを深め誇りや愛着を育てる場にします。観光客はもちろん、地域の人々にも文化財に触れるきっかけをつくり、歴史・文化を継承していくための土台作りを目指します。



(18) 具体的な体験プログラム

手に伝わる感覚や匂いなど、五感を使った体験を通して、新鮮な発見や気づきを得、一人ひとりの興味関心を引き出す

体験施設・プログラム例

- ・地域の人々や観光客が立ち寄り
学びや体験ができるカフェ
- ・史跡に関する資料、模型等、
出土品展示スペース
- ・常陸国分尼寺再現 VR 体験
- ・竪穴式住居づくりワークショップ
- ・竪穴式住居宿泊体験
- ・土器づくり
- ・鍛冶体験
- ・発掘体験
- ・瓦づくり体験
- ・奈良・平安をテーマにした
イベントの開催
- ・史跡を巡るスタンプラリー等



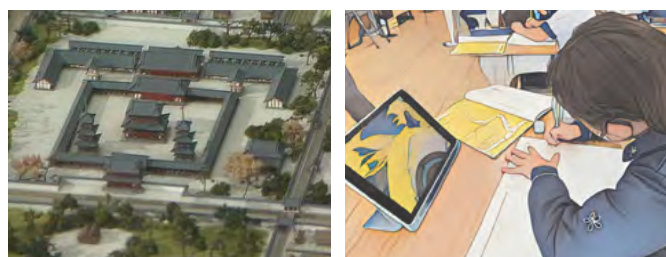
実際に体験することで見て知る知識以上の生きた学びとなり、学びを深める楽しさや、新たな興味や趣味を見つけるなど、生涯学習へのきっかけにもつながります。



(19) 常陸国分尼寺跡に隣接する府中小学校の特徴を活かす学び

生成 AI とプログラミングを活用した、児童による奈良・平安時代のまち再現

生成 AI に歴史、文化、気候等の情報を入力し、デジタル上で当時の国府周辺の街並みや暮らしを再現。勉強で学んだ内容を活かし自分たちで街並みを作る楽しさや再現された街を観察することで興味が深まり、新たな疑問を持つなど、子どもたちが積極的に歴史に触れるきっかけを創出します。自ら働きかけることで手応えを感じ、子どもたちの学びの意欲向上を期待できます。



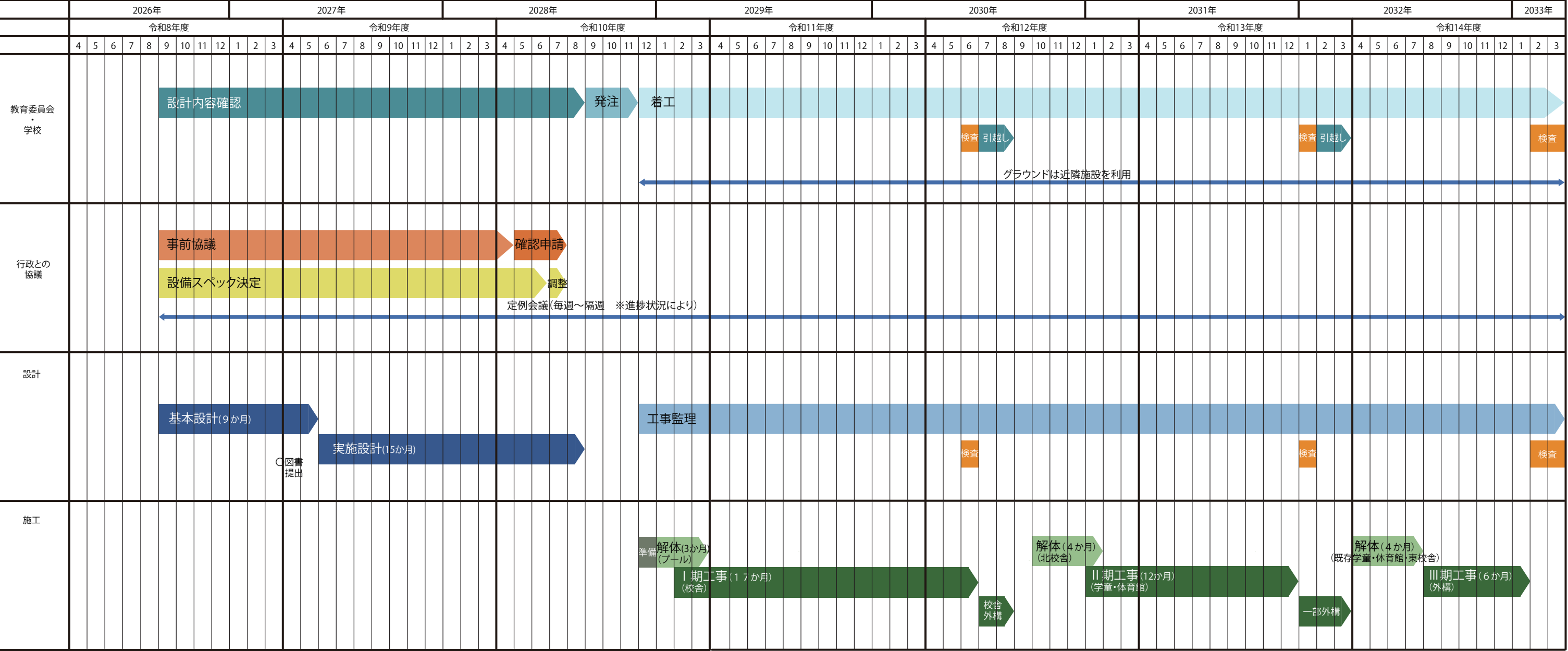
(20) ボランティアガイドによる自己成長の機会、社会貢献の実感、地域愛を育む

学校での学びを活かせる場を作り、人々との生きた交流から得られる経験育み、地域への誇りと愛着を育てる

授業の一環として、児童が授業で学んだ歴史や文化を地域の人々や観光客に向けて案内を行うボランティアガイドを実施。地域の魅力を習得し、人々に説明、紹介することで自身の学びをより深めます。聞いてもらう、質問をしてもらう、お礼をいってもらえるなどの相手の反応から、やりがいを感じるなど、社会貢献の実感を期待できます。人々との交流が自己の成長の機会となり、歴史への造詣が深まることで地域愛が育まれます。



(21) 設計・工事工程



※試掘調査及び発掘調査の実施により、工程が後ろ倒しになる可能性があります。

3－1 第1回ワークショップ報告書

府中小学校の新築に向けたワークショップ 第1回報告書

令和7年7月

【目次】

I. ワークショップ概要	1
1. 開催の目的	1
2. 開催概要	1
II. 第1回ワークショップ実施結果	3
1. テーマに対する意見出し	3
・今学校にどんな役割を求めていますか？	3
・50年後に府中小学校がどんな役割の姿であって欲しいですか	5
・あなたが府中小学校で残したいこと	7
2. 全国の特徴のある学校を調べてみよう	9
3. グラフィックレコーディング発表	13
4. まとめ	14

Ⅰ. ワークショップ概要

1. 開催の目的

- ・府中小の計画、石岡市の状況を自分事として捉え、小学校、石岡市の未来について一緒に良くしていこうとする意識の芽生え、共に作り上げる気運の醸成を図る。
- ・自分以外の意見に触れることで、新しい学校への見解を広げる。
- ・普段交わらない世代同士の交流の機会を生む。
- ・第1回は事前のアンケート（新しい府中小に期待することや配慮してほしいこと等）の結果を共有し、共通認識を持った上で府中小学校に求められるもの、必要になるもの、残すべきものなど、短期的な目線だけでなく、未来まで見据えた視点から府中小について考える機会をつくる。

2. 開催概要

実施日時 : 令和7年7月6日（日） 13:30～15:30

会 場 : 石岡市役所会議室

参加者 : 保護者・近隣にお住まいの方・在校生・卒業生・大学生等

参加人数 : 25名

進 行 : ファシリテーター／植竹 智央氏

グラフィックレコーダー／甲斐 千晴氏

プログラム：

開催前 アイスブレイク（簡単なカードゲーム）

13：30-13：40 挨拶

石岡市教育委員会教育長 岩田 利美氏

茨城県議会 戸井田 和之氏

基本構想提案発表

13：40-13：55 アンケート結果発表

「今学校にどんな役割を求めていますか？」各班による意見出し

13：55-14：00 他の班の意見をみてみよう

14：05-14：10 →AI による意見まとめ提示

「50 年後に府中小学校がどんな役割の姿であってほしいか？」

14：10-14：15 人口予測データなど紹介

各班による意見出し

14：15-14：20 意見の整理

14：20-14：25 他の班の意見をみてみよう

14：25-14：30 休憩

14：30-14：40 参加者がその中から気になった事例を発表

「全国の特徴のある学校を調べてみよう」

14：40-14：50 URL を共有、AI による意見まとめ提示

14：50-15：00 「あなたが府中小学校で残したいこと」各班による意見出し

15：00-15：05 意見の整理

15：05-15：10 各班発表

15：10-15：20 グラフィックレコーディング発表

まとめ、閉会

15：20-15：30

II. 第1回ワークショップ実施結果

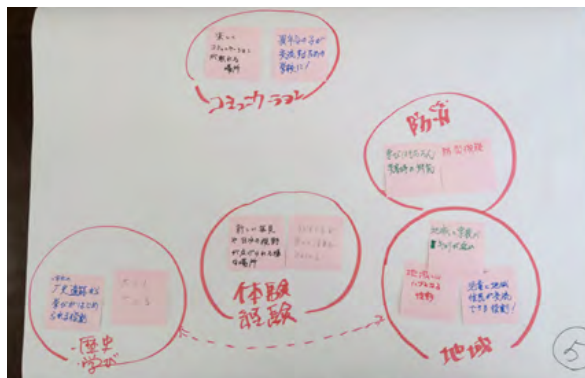
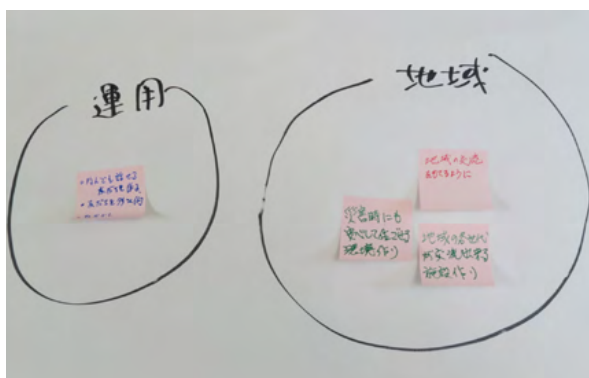
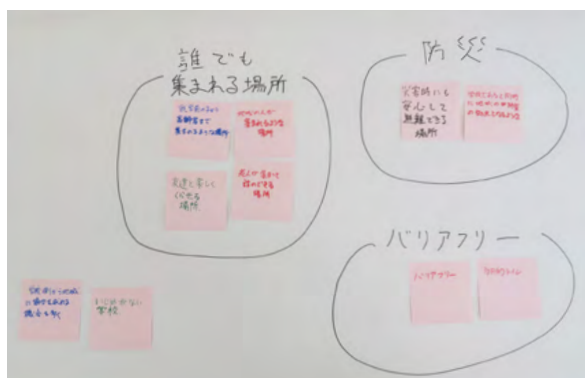
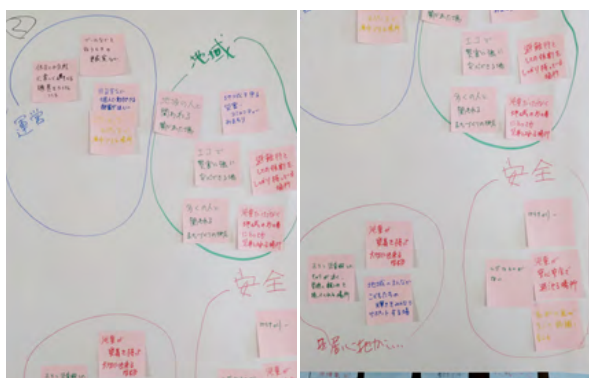
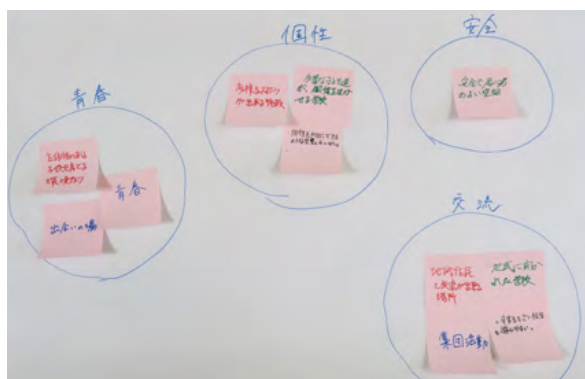
1. テーマに対する意見出し

◆意見出しの流れ

- ①自己紹介。
- ②1グループ5名×5グループに分かれ、問いに対しての意見を付箋に書き模造紙に貼っていく。
- ③出た意見やアイデアに関連性を見つけ、カテゴリ分けを行う。
- ④他グループの意見を見る時間を設ける。
- ⑤各グループの意見を ChatGPT で取込み、意見のまとめを掲示。

【テーマ① 「今学校にどんな役割を求めていますか？」】

こんな場があってほしい、地域の中でどんな役割ができるか、学校に求めるものはなにかなど、参加者が考える新しい学校に必要なものを書き出してもらいました。



【テーマ① 各班から出た意見まとめ】

① 地域・コミュニティ

- ・地域と学校が連携がとりやすいこと
- ・地域の人と関われる場、繋がれる場が必要
- ・地域交流のための設備づくり
- ・地域の各世代が交流できる場
- ・地域みんなが安心して住める環境
- ・多くの人と関われる場所
- ・児童と地域住民が交流できる機会の確保

② 安心・安全・防災

- ・災害時に安心して避難できる場所
- ・災害時の対応や防災の役割
- ・防災スキルや知識を習得できる場
- ・避難時に安心して過ごせる設備
- ・児童が安心して遊び・過ごせる場所
- ・バリアフリー化、多目的トイレの整備
- ・安全で安心な生活環境の確保

③ 学び・体験・育ち

- ・子どもが学べる場所、遊びながら学べる場所
- ・新しい発見や視野を広げる機会がある場所
- ・石岡の歴史を学べる
- ・大人も学べる場
- ・いじめのない学校
- ・子どもたちの健やかな育ちをサポートする
- ・地域との連携

④ 誰でも集まれる・居場所

- ・誰でも集まれるみんなの居場所
- ・就学前の子どもや高齢者も集まれる場所
- ・友達と楽しく過ごせる場所
- ・多世代が交流できる場
- ・卒業生も集まれる場

⑤ 青春・交流・個性

- ・地域住民と児童・生徒の交流の機会がある
- ・地域住民も楽しめるイベントや活動がある
- ・青春を楽しめる環境
- ・子どもの個性を尊重できる地域づくり
- ・若者支援や居場所づくり
- ・多様な経験ができる場

⑥ 運営

- ・自習室など個人で勉強できる場所
- ・休日などに気軽に遊べる遊具がある
- ・コワーキングスペース
- ・安心して利用できる更衣室

このテーマで出た意見で共通していたキーワードは

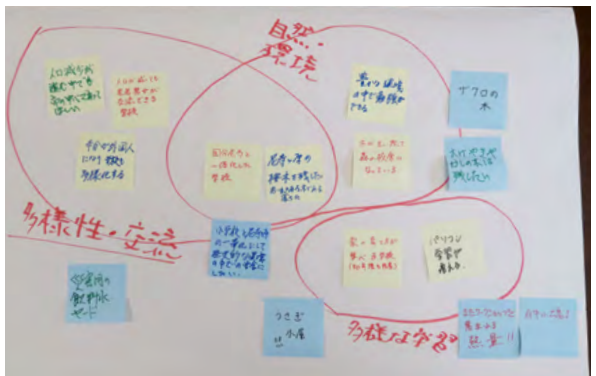
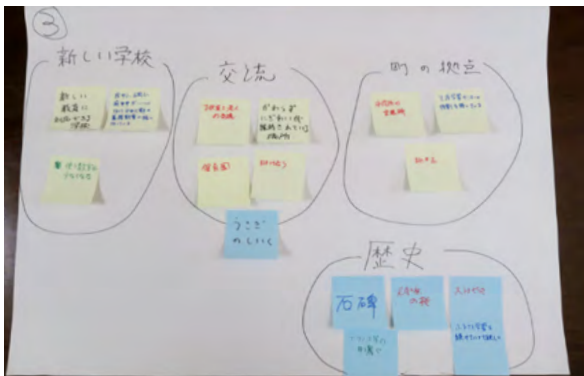
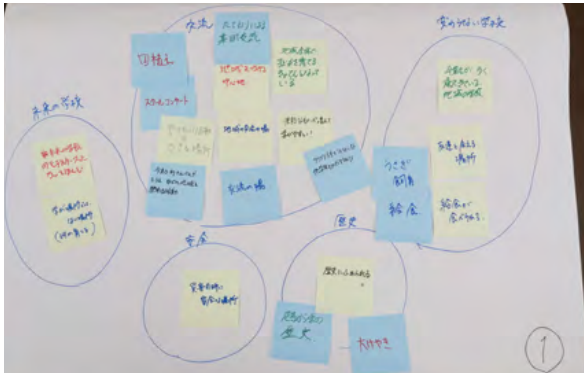
「交流・居場所」「安心・安全」「地域とつながる」「学びと育ち」

「誰もが利用しやすい」でした。

まず学校と地域が連携し、多世代が交流できるコミュニティの場であること、災害時にも安心して避難・生活できる防災拠点としての役割を求める声が多く見られました。また、子どもが主体的に学び育ち遊べる場、地域の歴史や文化、自然とつながり学べる環境、卒業生も含め誰もが集える開かれた居場所への期待も見られました。さらに勉強だけでなくワークスペースや地域の遊び場を求める声もあり、新しい府中小学校には小学生の学ぶ場所としての役割にとどまらず、地域に住む人々の拠点としての役割が求められていることが分かりました。

【テーマ② 「50 年後に府中小学校がどんな役割の姿であってほしいですか」】

意見出しの前に、植竹氏から旅で訪れた温泉街で感じたことや、石岡市の将来的な人口減少の予測を参加者に共有したうえで、現在の視点にとどまらず、50 年後の未来を見据えて小学校のあるべき姿について意見を出しあいました。



【テーマ② 各班から出た意見まとめ】

① 学校・教育

- ・地域の状況に対応した新しい学校の形
- ・人口減少に対応し、無駄な教室がでない学校
- ・ICTの活用やデジタルと体験型授業の融合
- ・誰もが学べる場
- ・地域・郷土に根ざした教育
- ・複数の学校の統合案なども視野に入れた検討

② 地域・交流・町の拠点

- ・地域の人々が世代を超えてつながる場
- ・子どもと大人の交流が生まれる場
- ・保育園やコミュニティ施設の整備
- ・生活支援ネットワークの拠点
- ・誰もが集まれる、町の中心となる学校
- ・AIでは代替できない、人と人とのつながりを感じることができる場

③ 自然・安心・防災

- ・自然と共存した安心で心地よさを感じる環境
- ・災害時にも機能する地域の防災拠点
- ・備蓄施設が整備されている
- ・バリアフリー
- ・大人も子どもも安心して過ごせる居場所

④ 歴史・伝統・文化

- ・歴史や伝統文化を次世代に継承する教育の場
- ・地域の祭りや行事の継承拠点
- ・時代が変わっても子どもたちが元気に通える学校

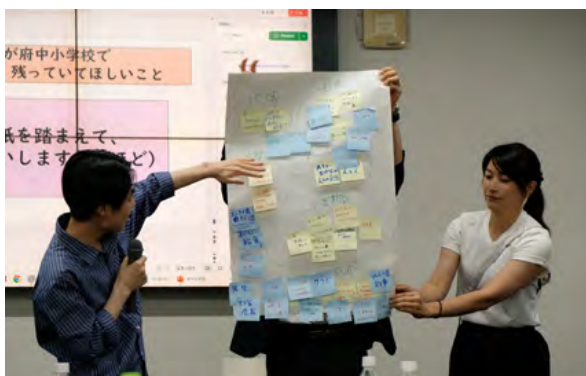
⑤ 学び・人との関わり

- ・多世代が集まり交流できる場
- ・子どもたちが生き物や自然と触れ合える環境
- ・地域全体で子どもを育む仕組み
- ・「地域の先生」との繋がりや担い手の育成
- ・多様なコミュニティが生まれる拠点
- ・学生だけでなく、若者から高齢者まで誰もが学べる場所
- ・コワーキングスペースとしての機能

参加者からは、学校を「単なる教育の場」ではなく、「地域の核となる多機能な拠点」として捉える意見や、人口減少社会においても地域と連携し、持続可能な未来に貢献できる学校の在り方を求める意見があがりました。50年後も今と変わらず子どもたちが元気に学校に通う風景や、様々な状況に対応する地域の拠点となる学校の姿が期待されていることが分かりました。

【テーマ③ あなたが府中小で残したいこと】

テーマ①②について話し合い、様々な意見に触れ、考えやイメージが広がったあとで、今ある府中小の良い所、残したい所に目を向け意見出しを行ってもらい、各班ごとに発表を行いました。



【テーマ② 各班から出た意見まとめ】

① 自然・環境・動物

- ・大けやき、ザクロの木、かしの木、桜や銀杏の木を残したい
- ・緑豊かな自然環境
- ・うさぎの飼育
- ・畑、農業体験

② 歴史・地域資源

- ・石碑
- ・ふるさと学習を続けたい
- ・ブランコなどの遊具
- ・昔からの校庭の様子
- ・国分尼寺の歴史
- ・石岡の歴史と関わる史跡や遺跡

③ 学校行事・文化・人

- ・人々の想い
- ・続いているイベント・祭り
- ・クラブ活動
- ・運動会・行事
- ・PTA 活動、大塚会長
- ・先生
- ・学校の食育や給食
- ・おいしい給食、地産地消の給食
- ・地域とつながるイベント
- ・卒業生のつながり

多くの参加者から、学校がこれまで地域と共に築いてきた自然や歴史、人の想いやつながりを大切にしていきたいという声が上がっていました。

「自然・環境・動物」では校内やその周辺にある大けやきやザクロの木といった樹木、豊かな緑に囲まれた自然環境、さらにはウサギの飼育や畑、農業体験など、子どもたちが自然と触れあえる環境を今後に残していきたいという意見が多くありました。特に大けやきはどの班からも意見が上がっており、地域の人々から愛されている存在であることが分かりました。

「歴史・地域資源」に関するものでは、隣接する国分尼寺と、石岡の歴史に関わる遺跡や史跡を残していきたいという意見、また昔からの校庭の様子（学校の歴史）や地域に根ざした文化について学ぶ場をつくり、子どもたちに受け継いでいきたいという意見があがりました。

「学校行事・文化・人」では、運動会やクラブ活動、地域とつながるイベント、美味しい地産地消の給食、PTA 活動など、日常の中で地域や保護者、先生と築いてきたつながりを大切にしたいという意見が多くあげられました。

2. 全国の特徴のある学校を調べてみよう

◆事例探しの流れ

- ①理想の学校をつくるために実際にどんなアイデアがあるのかを自分の携帯等の端末を使い、調べる
- ②見つけた事例について ChatGPT を使いまとめ共有する

「新しい学校 事例」「かっこいい学校 事例」等のキーワード例をあげてもらいそれぞれ持っている端末で検索してもらいました。

WiFi 接続や調べ方など、分からない人がいたら知っている人が教えるなど、協力し合う機会にもなるよう声掛けを行いながら進めました。



【特徴的な学校・施設まとめ】

① 東京都 府中第六小学校

特徴：対話と発信、表現の機会を大切にした学校

学習ラウンジや「みんなのホール」等の共有空間

6年生の総合学習で、新校舎設計に対する児童の意見やアイデアを協働でまとめ発表する
参与型授業を実施

PTA や地域との連携イベントが盛ん、縁日や展示会、演奏会などを通じて地域との交流を育む

② 東京都 板橋区立紅梅小学校

特徴：「地域とともにある学校」を実践

地域の伝統芸能や農業を学ぶ機会
地域の人々と連携した多様な教育活動
児童が地域から学ぶ・児童が地位に還元する学校
子どもの主体的な学びを促す授業形態を導入

③ 長野県 軽井沢風越学園

特徴：子ども主体の学びと対話重視の学校

学年の枠を越えた異年齢の子どもたちが学ぶ機会づくり
探求学習やプロジェクト型学習を重視
子ども・保護者・教職員が一緒に話し合い、学校運営に参加
文部科学省から「授業時数特例校」の認定を受けた柔軟な教育課程編成

④ 和歌山県 きのくに子どもの村学園

特徴：個性や個人差を尊重するオルタナティブスクール

実際に作ったり調べたりする活動が中心の「プロジェクト学習」
学年ごとの固定教室がなく、テーマごとに学ぶ空間構成
子どもたちの自主性や創造力を伸ばす教育方針
話し合いを大切にした学びの場

⑤ 茨城県 美浦村立美浦小学校

特徴：自然共生と環境教育に力を入れた学校

地域や児童による参加型の紋章や校歌
開放的な中央階段や自然光を多く取り入れた明るい空間
遠隔交流授業を通じた他地域児童とのオンライン交流
教育機能とともに地域行事にも利用される地域共用の拠点

⑥ 文部科学省「次世代学校施設のアイデア集」

全国各地の先進的な学校施設の事例を紹介

学校と地域が一体となった施設設計
防災拠点やコミュニティ機能を持つ学校
環境配慮型、ICT活用、学びの多様性に対応する空間づくり等

【共通するポイント】

これらの学校・施設には以下のような共通特徴があります。

- ・ 地域との連携・コミュニティ機能
- ・ 子どもの主体性や探求心を重視する学び
- ・ 自然や環境との共生、地域資源の活用
- ・ 校舎自体が学びや遊びの場となる設計
- ・ 防災や安心安全にも配慮した構造

【良い学校事例・施設まとめ】

① 千葉県 流山市立おおたかの森小・中学校

特徴：独立した教室構造とオープンスペースの両立

「L 地の壁」と家具、建具の組み合わせによる授業形態や活動内容に応じ柔軟な切り替え
学年別ユニット＋多目的スペースで将来的な生徒数変動にも対応しやすい可変性
地域との接点となる場を街に面して配置

② 千葉県 流山市立おおぐろの森小学校

特徴：教室の壁をなくし、学び方を選べる学校

1～3 年、4～6 年で区切る「学年ユニット制」
普通教室と多目的室、ゼミ室が一体化したユニット構成で児童数増減に柔軟に対応
校舎内に使われた木材の樹種サインや、敷地で発見された遺跡の実物展示
学校全体が学びの素材となる空間づくり

③ 熊本県 宇土市立宇土小学校

特徴：内外が緩やかにつながる学習空間

中庭と「L 壁」による教室、廊下、ワークスペース、中庭が緩やかにつながる設計
通風解析・自然換気タワーによるエコ設計
折り戸や可動壁によって、季節や天候に応じて内部の空間を外部と繋げることが可能
自然環境と学習空間の融合を目指す

④ 東京都 港区立芝浜小学校

特徴：伝統と文化を重んじた教育の実施

地域のスポーツセンターや消費者センター等と連携した学習活動
水辺空間を活かした環境学習
地域の事業者や大学と連携した環境教育やキャリア教育、地域人材を活用した教育を検討
「だれでもトイレ」「だれでも更衣室」など多様性への配慮

⑤ 茨城県 つくば私立学園の森義務教育学校

特徴：先進的な学びと地域連携を融合

ICT 活用や探求型学習を实践
学校と地域が連携した教育環境
オープンな学びの空間と地域拠点の役割

⑥ 長野県 軽井沢風越学園

特徴：森、ライブラリー、ラボによる学びの総合的環境

校舎面積の 4 倍以上の森
校舎中央の吹抜け空間に設置されたライブラリーが学びと移動を融合
様々な道具と素材で創作できるラボ
特別支援学級を設けず、個別支援体制を構築

⑦ 熊本県 合志市立合志風の森小学校

特徴：小中一貫校のグランドデザインに基づいた学びの連続性を意識した教育活動

小学校と中学校の教職員が合同で研究授業を行い、学びの連続性を意識した教育活動を実践
地域の人々と協力し、地域の文化や歴史を学ぶ機会を提供

廊下の間に開放的な図書室、多目的室、テラス等を設け街のように回遊性が高い空間づくり
小学生と中学生の出会いを促す場となる「みんなの玄関」

⑧ 東京都 新渡戸文化小学校

特徴：授業・施設・学校運営が一体となって「学びを自分で創る力」を育む

3D プリンターやレーザーカッター、工具等を備えたクリエイティブラボを設置

壁一面のスクリーンで上映会、発表、舞台などに使用できる空間

オープンキッチン形式の調理体験室、ラウンジなど多様なアクティビティに対応した施設

廊下をギャラリー空間とし、作品やポスター立体物などを自由に展示

チーム担任制を採用 生活面、学習面で学年を支援し、子どもが相談しやすい体制を整備

⑨ 東京都 川村小学校

特徴：充実した設備と万全な安全対策

守衛常駐・防犯カメラ完備、登下校センサー、自家発電装置

MetaMoj Classroom を活用し、リアルタイムで教員が児童の書き込みを把握・指導

Google スライドなどで資料作成を行うなど、ICT 活用が授業の中核

各教室にプロジェクター、電子黒板など最新の教育機器を完備

読書テラス、屋上菜園、築山など、自然に親しめるスペースも充実

【共通するポイント】

これらの学校・施設には以下のような共通特徴があります。

- ・空間の柔軟性、多目的性
- ・地域との連携
- ・ICT、探求学習の推進
- ・生徒主体の学び、個別最適化
- ・自然や環境との共生
- ・多様性、包括性への配慮

3. グラフィックレコーディング発表

◆グラフィックレコーディングの流れ

- ①甲斐氏によりワークショップで出た意見をリアルタイムでイラスト化し記録する
- ①完成したグラフィックレコーディングの発表
- ②参加者全員の振り返りの時間とし、理解を深める



ワークショップの最後に、グラフィックレコーディングの発表がありました。参加者からは歓声があがり、皆興味深く発表を聞いている様子が見られました。今日一日の話し合いの内容や意見が絵や図で視覚的に整理されたことで、分かりやすく振り返ることができました。自分たちの意見がリアルタイムで記録され、見える化されたことは満足度や参加意義の向上につながるものになったと思います。



4. まとめ

今回のワークショップでは、「今、求められる学校」「50年後の理想の姿」「残したい学校の価値」の3つの問いを通して、府中小学校がこれからどのように進化していくべきか、地域とともにじっくりと考える貴重な時間となりました。学校を単なる教育機関としてだけではなく、地域とともに生きる、つながりの拠点として子どもも大人も関わりながら共に未来をつくっていきたいという意見が多くあげられ、認識の共有と確認を行うことができました。

第2回のワークショップでは今回出された多様な意見や視点をふまえた計画の提案を行い、より具体的な視点からの意見を集める機会とし、計画の精度を高めることに役立てていきます。



3－2 第2回ワークショップ報告書

府中小学校の新築に向けたワークショップ 第2回報告書

令和7年8月

【目次】

I. ワークショップ概要	1
1. 開催の目的	1
2. 開催概要	1
II. 第2回ワークショップ実施結果	3
1. アイスブレイク	3
2. 基本構想提案発表	4
・参加者から意見、質問の収集	4
3. テーマに対する意見出し	5
・学校の中に、学校以外の機能を入れるとしたら？	6
4. グラフィックレコーディング発表	7
5. まとめ	8

1. ワークショップ概要

1. 開催の目的

- ・府中小の計画、石岡市の状況を自分事として捉え、小学校、石岡市の未来について一緒に良くしていこうとする意識の芽生え、共に作り上げる気運の醸成を図る。
- ・自分以外の意見に触れることで、新しい学校への見解を広げる。
- ・普段交わらない世代同士の交流の機会を生む。
- ・第2回では、第1回で上がった声や想いを反映させた計画の発表を行い、さらに具体的な意見や質問を拾い上げる機会とし、計画の精度向上へ繋げる。

2. 開催概要

実施日時 : 令和7年8月24日(日) 13:30～15:30

会 場 : 石岡市役所会議室

参加者 : 保護者・近隣にお住まいの方・在校生・卒業生・大学生等

参加人数 : 9名

進 行 : ファシリテーター／植竹 智央氏

グラフィックレコーダー／甲斐 千晴氏

プログラム：

- 13：30-13：40 挨拶
石岡市教育委員会教育長 岩田 利美氏
第1回振り返り
- 13：40-13：50 アイスブレイク 「府中小学校の思い出を共有しあおう」
- 13：50-14：05 基本構想提案発表
- 14：05-14：30 休憩
- 14：30-14：40 「もしも学校の中に、学校以外の機能を入れるとしたら？」
- 14：40-15：00 各班による意見出し
各班発表
- 15：00-15：20 グラフィックレコーディング発表
まとめ、閉会
- 15：20-15：30

Ⅱ. 第2回ワークショップ実施結果

1. アイスブレイク「府中小学校の思い出を共有しあおう」

◆アイスブレイクの流れ

- ①自己紹介。
- ②府中小学校での思い出をそれぞれ付箋に書く。
- ③一人ずつ発表。

参加者一人ひとりが、学校周辺の風景や足の感触、先生に怒られた記憶などの思い出を鮮明によみがえらせ、会話に花を咲かせることで和やかな雰囲気がつくられると同時に、それぞれの学校に対するイメージが明確になり、新たな府中小を考える準備を整えることができました。



2. 基本構想提案発表

第1回で挙げられた声を反映した計画を発表しました。参加者からは計画に対する質問や疑問を挙げてもらい、その後計画者による回答を行いました。参加者は疑問や不安をその場で解消できることとなり、地域の声が軽視されていないと感じられること、他者の意見を聞くことで気づかなかった視点をもてること、計画の背景を知ることでの納得感につながられた機会になったのではないかと思います。

【参加者から集まった意見・質問とJVからの回答】

- ◆トイレはウォシュレット付がいい
 - ▶設置を予定です
- ◆男子トイレを全て個室にしてほしい
 - ▶頂いた意見を参考に費用とのバランス考え、市と協議し計画していきます
- ◆北側、西側から登校する子供たち向けの校門
 - ▶西側に校門を設置し、歩車道分離した歩行ルートを計画予定です
- ◆全方向から来校者の把握が職員室からできるように（東小のような）
 - ▶頂いた意見を参考に、市と協議を行いながら計画をしていきます
- ◆グラウンドに車を入れない想定での、出入りしやすい駐車場
 - ▶平常時とイベント時の来校者の規模と活用できるスペース、利用のしやすさを複合的に考え検討を進めます
- ◆駐車場周辺の道路は、雨の日の送迎渋滞改善のため一方通行にしてほしい
 - ▶校内に送迎用の一方通行の道路を整備予定です
- ◆遊具はどうなる？
 - ▶皆様からの声参考に、安全性を第一に考え、市や学校と協議し計画を行っていきます。
- ◆太陽光発電はある？
 - ▶規模と発電効率、費用対効果を考慮しつつ、最適な規模で配置予定です
- ◆1階の給食室から低学年教室に給食を運ぶ際、一度外に出ることになる？
 - ▶雨風を凌げる屋根付きの半屋内の廊下を通っていただく動線で計画をしています。
- ◆冬、北側の教室が寒い
 - ▶断熱を伴う空調設備を設置予定です
- ◆近隣の児童館が現在使えないため、子育て支援機能があると嬉しい
 - ▶現在の利用状況をふまえ、基本構想の中で検討を進めていきます
- ◆PTAの活動を、府中公民館を利用しなくてもいいようにしてほしい
 - ▶PTA活動や先生との連携の図りやすさも考え、配置等検討を行います



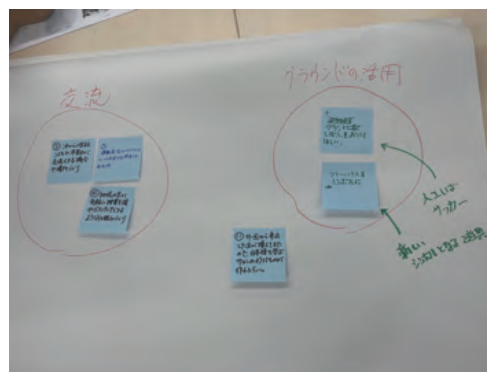
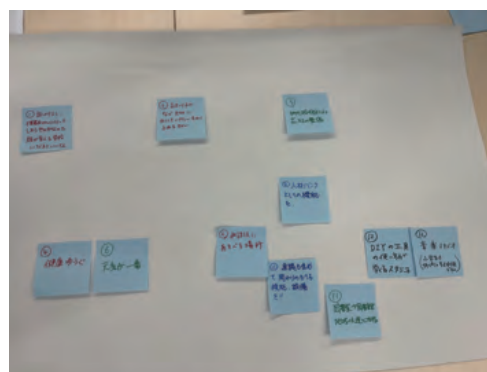
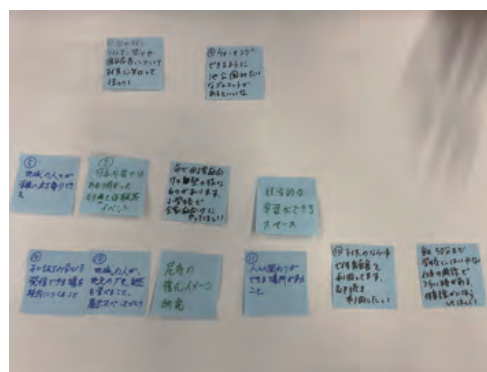
3. テーマに対する意見出し

◆意見出しの流れ

- ① 1グループ3名 × 3グループに分かれ、配布されたカードを参考に問いに対しての意見を付箋に書き、模造紙に貼っていく。
- ② 出た意見やアイデアに関連性を見つけ、カテゴリ分けを行う。
- ③ 各グループの意見を ChatGPT で取込み、意見のまとめを掲示。
- ④ 各班の発表。

【テーマ 「学校の中に、学校以外の機能を入れるとしたら？」】

計画の提案を聞いたうえで、地域にとって府中小はどんな場所になって欲しいのか、「地域みんなで使える小学校」の機能について意見を出し合い、各班ごとに発表を行いました。



【各班から出た意見まとめ】

① 健康・福祉・施設機能

- ・顔が見える学校
- ・おまつり文化などに触れる機会
- ・地域の団体による花壇の整備
- ・健康遊具
- ・人材バンクとしての機能を
- ・元気が一番
- ・放課後に遊べる場所
- ・周りとの関わりが持てる機能・設備
- ・図書室→図書館 地域の人たちとつながる
- ・DIY の工具の使い方が学べるスタジオ
- ・音楽スタジオ（小・中学生も利用できる）

② 学習・体験・地域交流

- ・歴史館を作してほしい
- ・ウォーキングができるゴムマット
- ・経済的な学習ができるスペース
- ・地域の人々が学校に立ち寄れる
- ・餅つき体験イベント
- ・市で行われている母子家庭向け塾を
全家庭向けに
- ・子どもたちの学びを発信できる場
- ・地域の人々が歴史を学べる展示スペース
- ・尼寺の復元イメージ研究
- ・子供の習い事で引き続き体育館を利用したい
- ・早朝の送迎時、もう少し早くに子供が学校に
入れるようにしてほしい

③ 交流・グラウンド活用

交流

- ・入学前の子供や卒業生との交流を増やす機会や場所
- ・運動会などのイベントでつながりを作る
- ・地域の方が気軽に授業支援やボランティアができる仕組み

グラウンドの活用

- ・グラウンドに芝生を植えてほしい
- ・ツリーハウスをシンボルに
- ・外国の方向けの日本語を学べるサロン

多くの参加者から、学校と地域が気軽に繋がりを持てる施設や環境が整っていると
いいという声が上がっていました。

「健康・福祉・施設機能」では、健康遊具や放課後に子供たちが安心して遊べる場所の
整備を望む声が多くあり、学校を福祉や交流の場としても活用したいという意見が
多くありました。

「学習・体験・地域交流」に関するものでは、歴史館や子供たちの学びを発信できる場、
地域の人々が歴史を学べる展示スペースなど、学びを通しての交流の場を求める意見
があがりました。ほかにも、母子家庭向け塾の全家庭向けへの展開や早朝預かりの
充実といった学校の利便性の向上を求める声もあがりました。

「交流・グラウンド活用」では、入学前の子供や卒業生との交流や、地域の方が気軽に
授業支援やボランティアができる仕組みを求める声がありました。またグラウンドに
人工芝を設けてほしい、ツリーハウスを設置してシンボルにしてほしいといった、
グラウンドを利用しやすく立ち入りやすい憩いの場として活用してほしいという意見
があがりました。

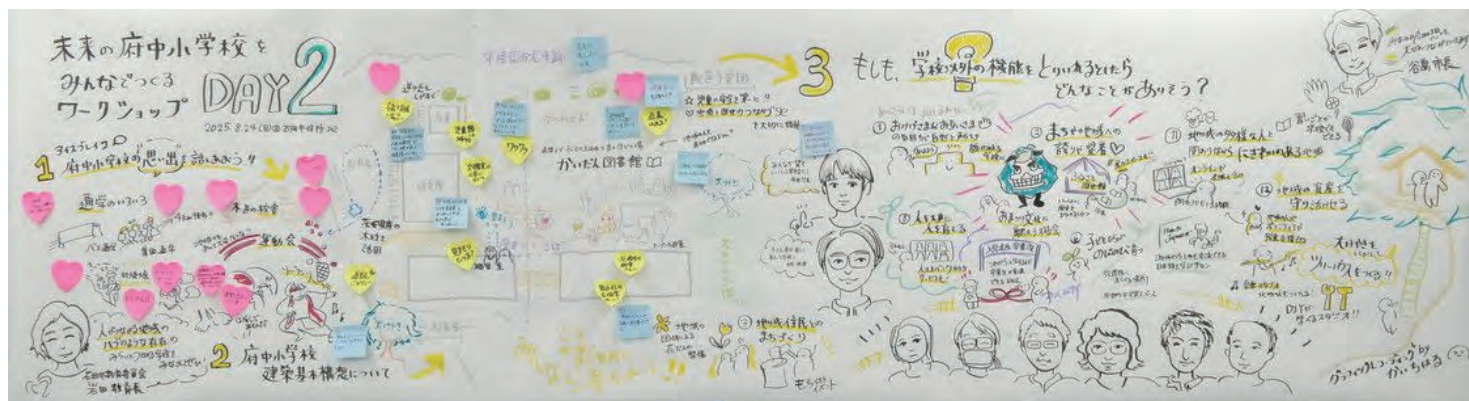
4. グラフィックレコーディング発表

◆グラフィックレコーディングの流れ

- ①甲斐氏によりワークショップで出た意見をリアルタイムでイラスト化し記録する
- ①完成したグラフィックレコーディングの発表
- ②参加者全員の振り返りの時間とし、理解を深める



ワークショップの最後に、グラフィックレコーディングの発表がありました。今日一日の話し合いの内容や意見が絵や図で視覚的に整理されたことで、分かりやすく振り返ることができました。自分たちの意見がリアルタイムで記録、見える化され、第1回に引き続き満足度や参加意義の向上につながるものになりました。



5. まとめ

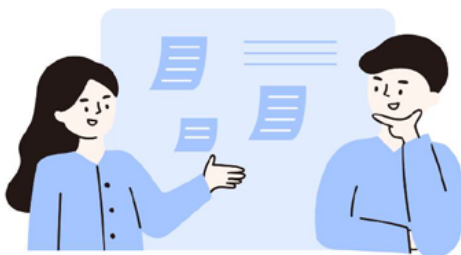
今回のワークショップは、第1回に比べて具体的な計画を行うことで、参加者からも実際の利用をイメージしたより具体的な声や意見を頂くことができました。「学校の中に、学校以外の機能を入れるとしたら？」という問いからは、自分の生活にどのように関わっていくのか、地域の将来を見据え新しい府中小学校をどのように活用していけるのか考えを深める時間となりました。また他の人の意見を知ることによって新たな気づきが得られる機会になったと感じます。第1回、第2回のワークショップを通して、計画者と地域の方々がお互いに顔を合わせ、直接意見を交換することで計画に対する信頼関係を育む場となり、また計画者側も気づけなかった声に気づくことができる機会になりました。参加者から頂いた声や意見は今後の計画にできる限り反映できるよう努め、地域に愛される府中小学校となるよう役立ててまいります。



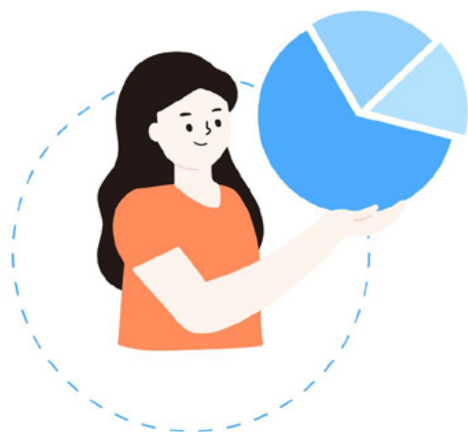
3-3 アンケート調査結果

府中小学校の新築に向けたアンケート

結果報告



石岡市教育委員会事務局 教育総務課 学校再編推進室



はじめに

府中小学校の新築に向けて
アンケート調査を実施しました。
その結果をお知らせいたします。

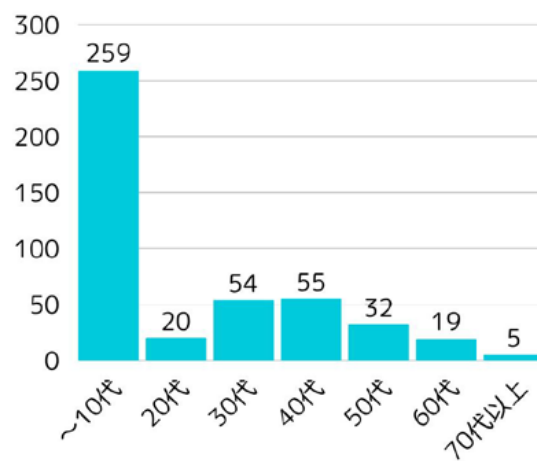
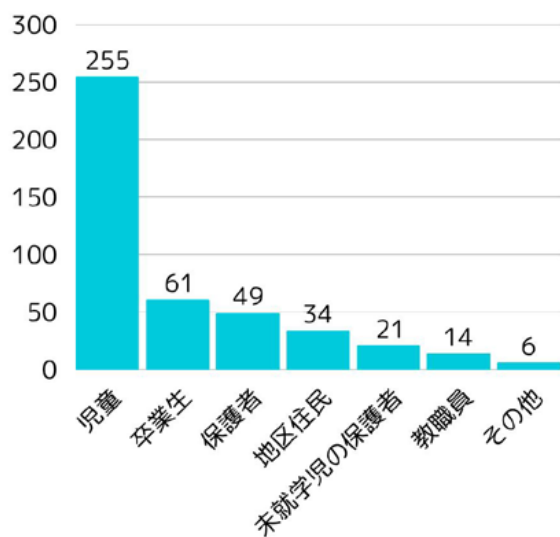
アンケートの目的

- 新しい府中小学校を地域に愛される学校・施設とするために、子ども達、保護者、卒業生、地域住民や現場で働く教職員からの声を抽出し、設計計画に反映させる。

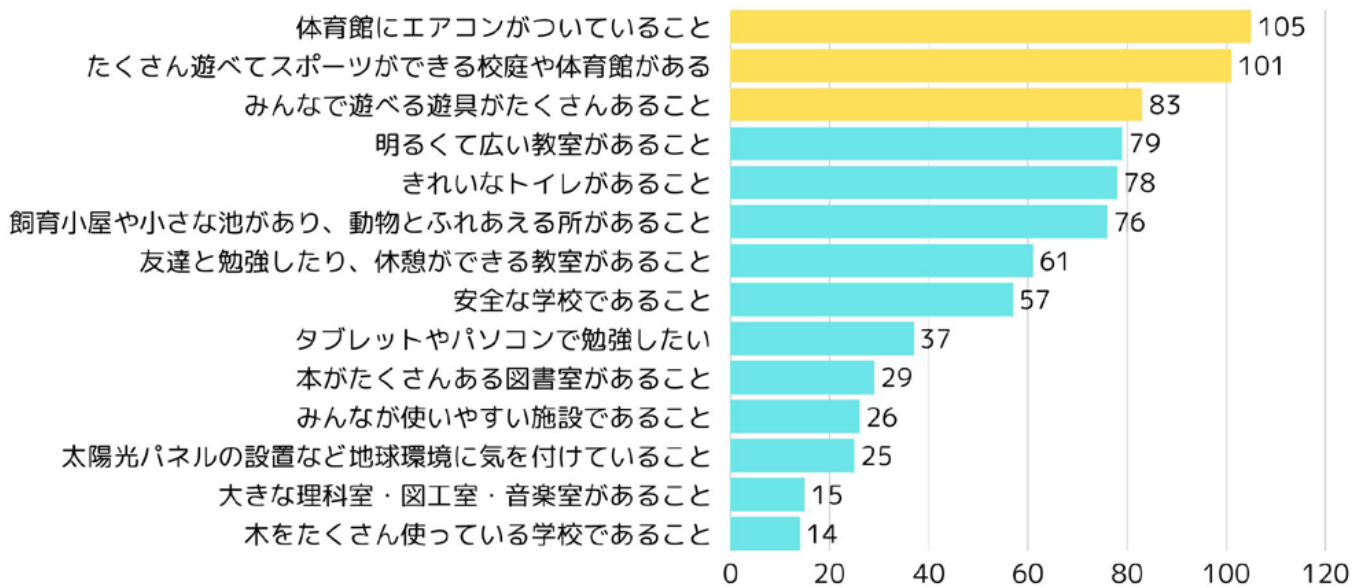


回答者の属性

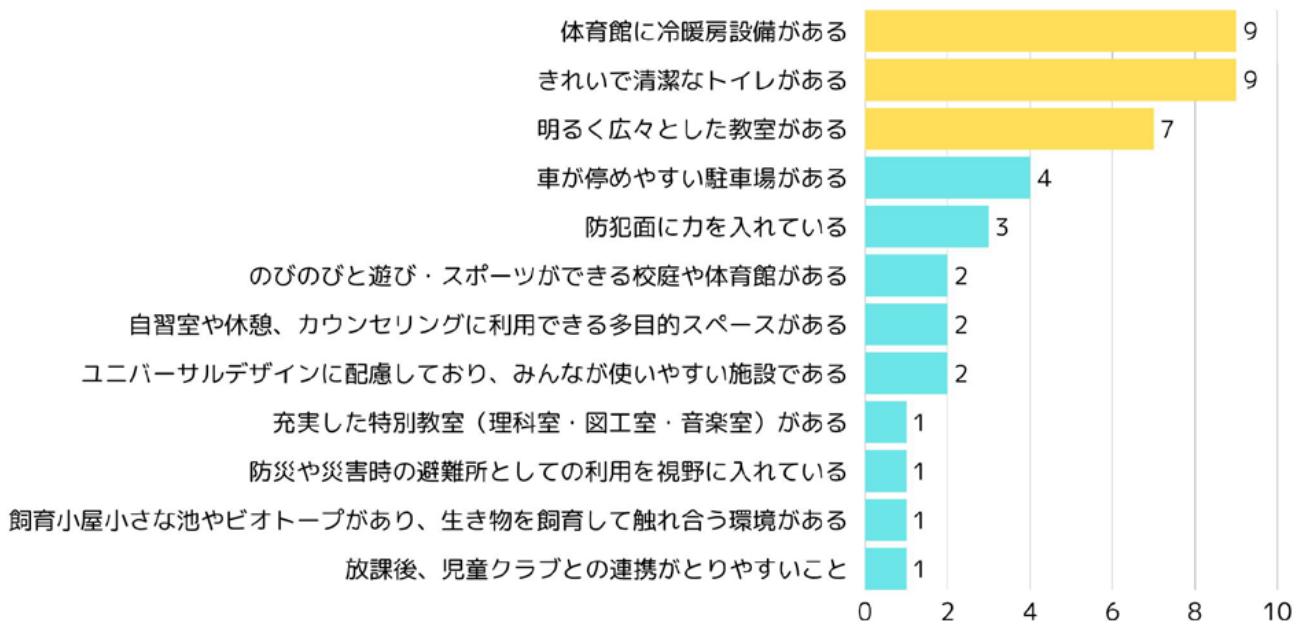
実施期間：2025年4月30日～5月30日



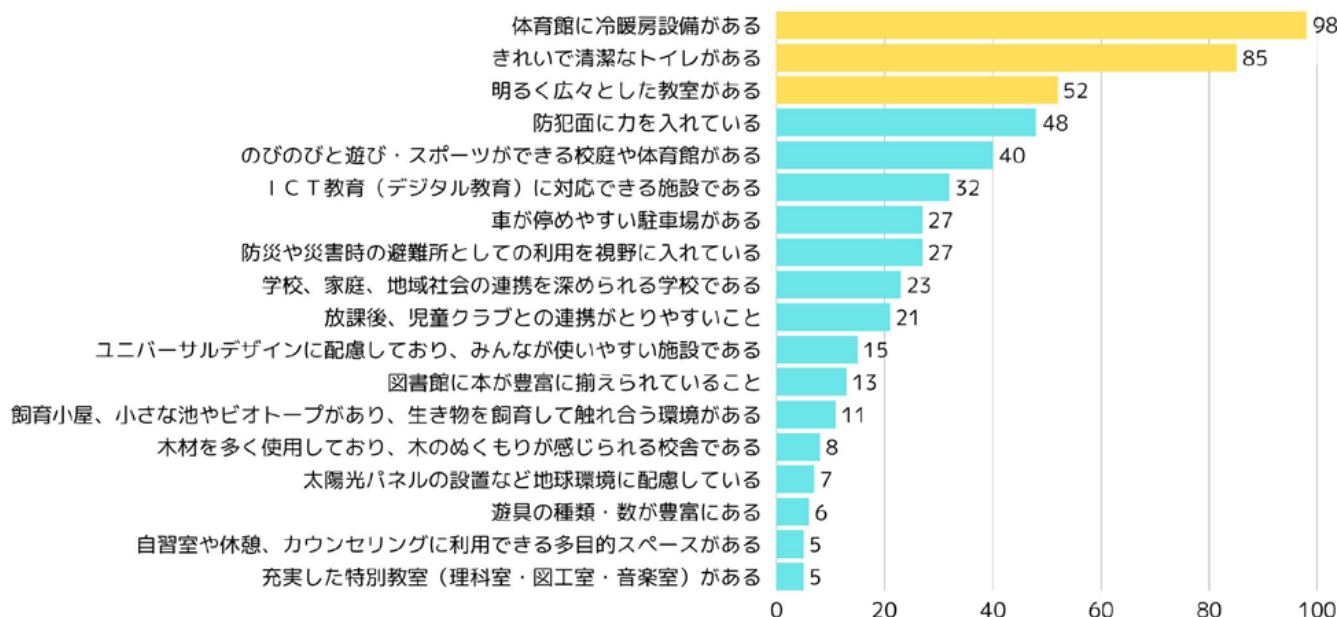
①新しい校舎に期待する点は？（児童）



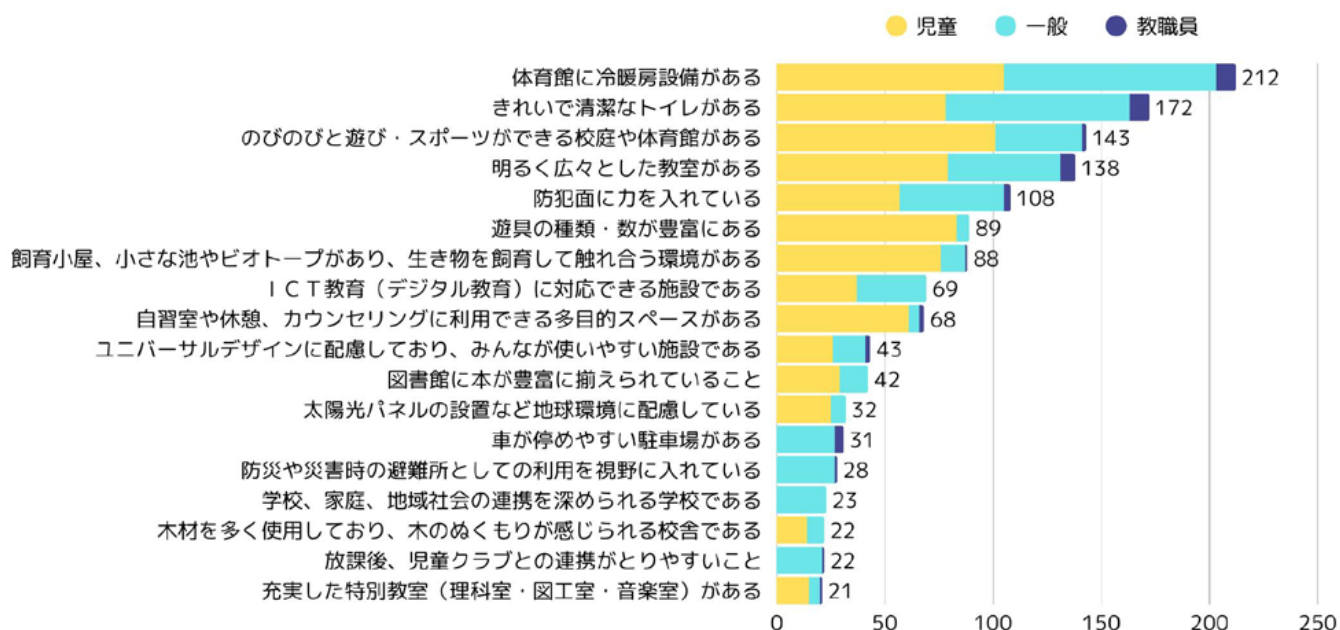
①新しい校舎に期待する点は？（教職員）



①新しい校舎に期待する点は？（一般）

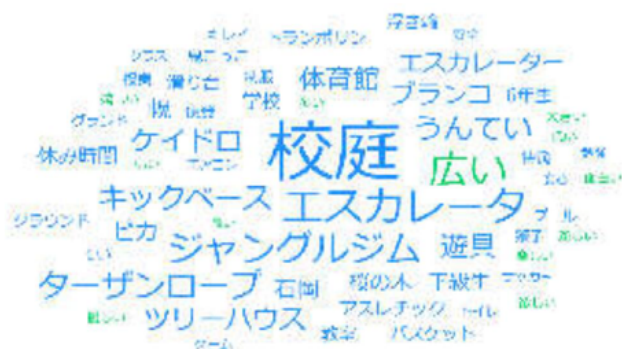


①新しい校舎に期待する点は？（全体）



②新しい学校について、「あったらいいな」、 「やってみたい」と思うことはありますか？

児童



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)
文章中出现する単語の頻出度を表にしています。
いただいたご意見の中で頻出する言葉と特徴的な言葉
ほど大きく表示されます。

- 広い校庭
- エスカレーターを設置
- 体育館にトイレを設置
- 遊具の増設（ブランコ、ジャングルジム、すべり台、ターザンロープ、うんてい等）

他にもこんな声が上がっています。

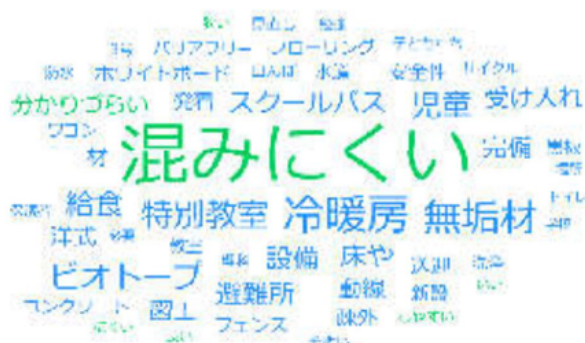
キックベース、サッカー、野球ができるような
広いグラウンドを作してほしい。

地域の人や下級生との交流会がしたい。

制服があったらいいな。

③改善してほしい所、残してほしい施設（場所）や 配慮してほしいことはありますか？

教職員



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)
文章中出现する単語の頻出度を表にしています。
いただいたご意見の中で頻出する言葉と特徴的な言葉
ほど大きく表示されます。

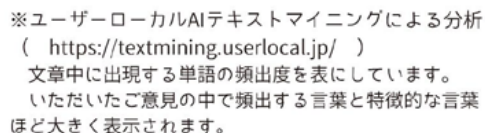
- 駐車場は混みにくい動線へ工夫をしてほしい
- 給食室や特別教室にも冷暖房設備を完備
- お湯が出る水道
- 黒板ではなくホワイトボードを採用
- 児童と静かに話し合える教室

他にもこんな声が上がっています。

給食の受け入れ場所をひとつにして、エレベーターで
各クラスの給食を乗せたワゴンが運べるといいと思う。

床材で無垢材の使用は机や椅子のへこみにつながるため、
コート材フローリング（コンクリート不可）にしてほしい。

一般



- 大けやきを残してほしい
- 常陸国分尼寺跡（尼寺ヶ原）と共存できる学校にしてほしい
- 外トイレの整備

他にもこんな声が上がっています。

外の渡り廊下は雨が降ると水浸しになってしまうので、なくしてほしい。

防犯面を考慮しながら、地域の活動にも利用できる
ようにしてほしい。